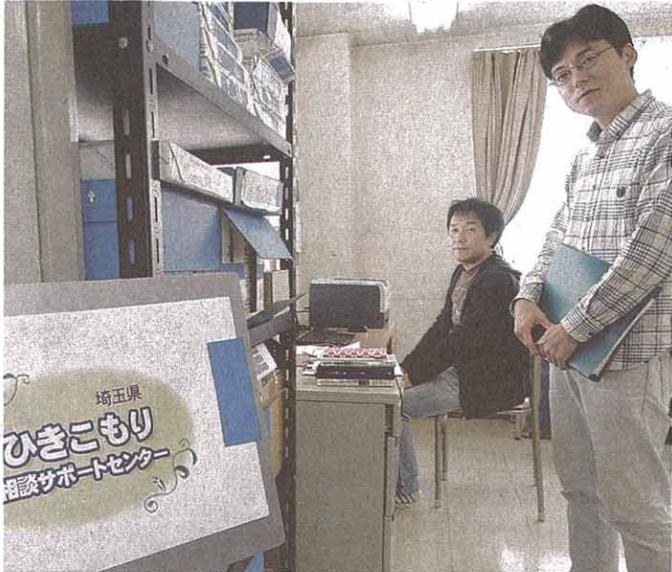


越谷に ひきこもり 専門相談窓口



「当事者の目線を大事にしたい」と話す鎌倉さん(右)＝越谷市で

「焦らず、当事者目線で」

県施設でひきこもりに特化した初の相談窓口となる「県ひきこもり相談サポートセンター」が越谷市の東武伊勢崎線せんげん台駅前にて

た。若年層のひきこもり支援に実績があるNPO法人に運営を委託し、長期化しがちなひきこもりの早期解決が期待される。(富江直樹)

ひきこもりの相談窓口は、県内ではさいたま市が二〇一三年一月に設置した市ひきこもり相談センター(同市中央区)に続き、二方所目となる。

ひきこもり相談はこれまで、伊奈町の県精神保健福祉センターや各地の保健所が心の健康や悩みに関する相談業務の中で行っているが「ひきこもり相談の案内が分かりにくい」との指摘があった。

一〇年の国の調査では県内の十五〜三十九歳のひきこもりは推計で三万九千五百人に上る。

県は「ひきこもりの長期化を防ぎ、

県が初めて開設

支援に実績 NPO法人運営

早期解決を図るには若年層の相談体制を手厚くする必要がある」と判断。越谷市内で六〜二十歳の子どもや若者の居場所として「フリースクールりんごの木」を運営するNPO法人「越谷らるる」に白羽の矢が立った。

越谷らるるは、不登校の子どもを持つ親らが中心となり、一九九二年に設立された。フリースクールのほか自立援助ホーム「ゆらい」を運営。業務の合間に不登校やひきこもりの子どもとの相談も行ってきた実績があり、県からの委託を受け、専従のスタッフ三人で相談に当たる体制を整えた。

事務長の鎌倉賢哉さん(右)は「せき立てると空回りしてしまう。焦らず慌てず、当事者の目線を大事にし、話しやすい環境をつくりたい」と話している。

相談は六歳以上のひきこもりの状態にある人やその家族、関係者が対象で無料。毎週日曜・火曜を除く午前十時〜午後六時。来所は原則として電話などで予約が必要。電話やメールでの相談も受け付けている。問い合わせ・相談は越谷らるるに電話048(971)5613へ。